

地震で起こり得る被害と対策について考えましょう

今後発生が予想される南海トラフ巨大地震では、津波被害のほか、次のような被害が発生すると考えられます。起こり得る被害を想定して、災害に備えましょう。

❗ 建物が崩れ、落下物が発生する

古いビルや家屋が崩れ生き埋めになったり、外壁や窓ガラスが落下し、けがをしたりする恐れがあります。

行動範囲内の危険な箇所(古いビルやブロック塀など)を、事前に確認しておきましょう。



❗ 電話がつながりにくくなる

通話の集中や通信設備の被災などにより、電話やインターネットがつながりにくくなります。



連絡が取れない場合の集合場所を事前に決めておいたり、災害用伝言ダイヤル(171)を活用したりしましょう。

❗ 電気・ガス・水道が使えなくなる

停電や都市ガスの停止、水道の断水が起こり、復旧まで時間がかかる場合があります。



電池やカセットコンロ、食料などを備蓄しておきましょう。生活用水の確保のため、湯船の水を捨てずに残しておくことも有効です。

❗ 道路が通れなくなる

建物の崩壊や、自動車の集中による渋滞で避難が困難になることが予想されます。また、山間部では土砂崩れなどによっても道路の寸断が発生します。

地震発生時は原則徒歩で避難しましょう。



地震による電気火災を防ぎましょう

地震による火災の出火原因は時代とともに推移しています。昔はかまどや七輪からの出火が多く、今ではガス・石油機器類からの出火が多く見られます。そして、近年の大規模地震発生時には、電気器具の故障や破損したケーブルからの出火など、電気を起因とする火災の発生件数が増加しています。

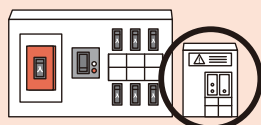
地震時の電気火災対策には「感震ブレーカー」が効果的です！

感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知した時に、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時の地震やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段です。

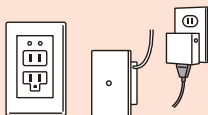
主な感震ブレーカーの種類



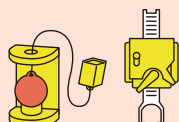
分電盤タイプ(内蔵型)



分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ

感震ブレーカーを設置するときは急な停電に備えた対策も一緒に行いましょう

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリーなどを備えてください。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

再通電時の火災を防ぐため、復電の際は以下に気を付けましょう

- 復電する前に、ガス漏れ等がないことの確認や、電気製品に破損がないかなど安全性の確認を行ってください。
- 復電後に焦げたような臭いを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度、電気製品の安全性の確認を行いましょう。原因が分からない場合は電気の使用を見合わせる必要があります。

